

2019（令和元）年度
事業報告書

2019（平成31）年4月1日から2020（令和2）年3月31日まで

学校法人 武蔵野美術大学

目次

I. 学校法人の概要

1. 建学の精神・教育理念	p.1
2. 法人及び設置学校の沿革	p.1
3. 設置する学校・学部・学科等	p.2
4. 入学者数・収容定員・学生数	p.3
5. 卒業・就職状況	p.5
6. 学生納付金に関する情報	p.6
7. 当該学校の所在地	p.13
8. 学外施設	p.13
9. 役員及び教職員に関する情報	p.14

II. 事業の概要

1. 教育研究組織の改編等	p.16
2. 教育力の強化	p.16
3. 教育環境充実に向けたキャンパス整備	p.17
4. 美術館・図書館機能の充実	p.17
5. 学生支援の充実・強化	p.18
6. 研究支援・社会連携推進、 美術教育の普及、美術文化の振興	p.19
7. 広報・IR活動の強化	p.20
8. 組織・大学運営力の強化	p.20
9. その他の主な取組	p.21

III. 財務の概要

1. 経年比較	p.23
2. 主な財務比率比較	p.25

I. 学校法人の概要

1. 建学の精神・教育理念

武蔵野美術大学の教育理念は、昭和4（1929）年10月30日、本学の前身である帝国美術学校の創立に由来するものです。

帝国美術学校の創立に寄与し、後にその経営と教育の中心となった金原省吾（開校時学監）の手記には「教養を有する美術家養成」と記されています。また、創立時の中心人物のひとり名取堯（開校時主事）の『武蔵野美術』（創立三〇周年記念特集）に寄せられた30年の回顧には、「人間が人間になる道は激しい鍛錬、たゆまざる精進の中にあつて、放任の中にはない、その框（わく）を固定させず、しかも、放縦に任せず、真に人間的自由に達するような美術教育への願い」であると語られており、美術を技術的専門性だけでなく、総合的な人間形成をもって成るものと考えたのです。

このように、まさに人間的自由に達するために美術・デザインを追求することこそが、本学の教育理念であると言ふことができ、国内美術大学では最大規模の造形教育の大学となった現在も、この教育理念を継承し堅持しています。

2. 法人及び設置学校の沿革

1929（昭和4）年	帝国美術学校開校（北多摩郡武蔵野町吉祥寺）
1947（昭和22）年	造型美術学園と校名変更
1948（昭和23）年	武蔵野美術学校と校名変更
1957（昭和32）年	学校法人武蔵野美術学校認可 武蔵野美術短期大学設置
1959（昭和34）年	短期大学通信教育部開設
1961（昭和36）年	鷹の台校（現鷹の台キャンパス）開設
1962（昭和37）年	学校法人武蔵野美術大学に改称 武蔵野美術大学設置、造形学部開設
1969（昭和44）年	鷹の台キャンパスに全学統合 武蔵野美術学園開設
1973（昭和48）年	大学院造形研究科（修士課程）を開設
1988（昭和63）年	武蔵野美術短期大学を武蔵野美術大学短期大学部に名称変更
2002（平成14）年	造形学部通信教育課程開設
2003（平成15）年	武蔵野美術大学短期大学部廃止
2004（平成16）年	大学院造形研究科に博士後期課程設置
2018（平成30）年	武蔵野美術学園閉校
2019（平成31）年	市ヶ谷キャンパス開設、造形構想学部および大学院造形構想研究科開設

3. 設置する学校・学部・学科等

武蔵野美術大学 学長 長澤忠徳

【武蔵野美術大学大学院】

造形研究科

修士課程 美術専攻
デザイン専攻
博士後期課程 造形芸術専攻

造形構想研究科

修士課程 造形構想専攻

【武蔵野美術大学】

造形学部 日本画学科
油絵学科 油絵専攻
版画専攻
彫刻学科
視覚伝達デザイン学科
工芸工業デザイン学科
空間演出デザイン学科
建築学科
基礎デザイン学科
映像学科*1
芸術文化学科
デザイン情報学科

造形構想学部 クリエイティブイノベーション学科
映像学科*1

造形学部 通信教育課程
油絵学科
工芸工業デザイン学科*2
芸術文化学科
デザイン情報学科

*1 造形学部映像学科については、2019年度より造形構想学部へ移設。

*2 通信教育課程 工芸工業デザイン学科については、2019年度の1年次生より段階的に募集停止。

4. 入学者数・収容定員・学生数（2019年5月現在）

武蔵野美術大学

【大学院】

研究科／課程／専攻	1年次生数	収容定員	学生数	収容定員充足率
造形研究科 修士課程 美術専攻	63	78	115	1.47
造形研究科 修士課程 デザイン専攻	51	73	113	1.55
造形構想研究科 修士課程 造形構想専攻	65	35	65	1.86
小計	179	186	293	1.58
造形研究科 博士後期課程 造形芸術専攻	8	18	18	1.00
小計	8	18	18	1.00
合計	187	204	311	1.52

【学部（通学課程）】

学部	研究科／課程／専攻	1年次生数	収容定員	学生数	収容定員充足率
造形学部	日本画学科	41	159	171	1.08
	油絵学科	150	578	637	1.10
	彫刻学科	36	130	145	1.12
	視覚伝達デザイン学科	117	434	454	1.05
	工芸工業デザイン学科	128	535	564	1.05
	空間演出デザイン学科	115	482	512	1.06
	建築学科	76	320	341	1.07
	基礎デザイン学科	77	300	323	1.08
	映像学科	—	265	284	1.07
	芸術文化学科	82	318	332	1.04
	デザイン情報学科	83	376	400	1.06
小計		905	3,897	4,163	1.07
造形構想学部	クリエイティブ イノベーション学科	80	76	80	1.05
	映像学科	80	76	80	1.05
小計		160	152	160	1.05
合計		1065	4,049	4,323	1.07

*造形構想学部映像学科については、2019年度より造形学部より移設。

【学部（通信教育課程）】

学部	学科	1年次生数	収容定員	学生数	収容定員充足率
造形学部	油絵学科	101	980	1,078	1.10
	工芸工業デザイン学科	—	585	283	0.48
	芸術文化学科	21	440	366	0.83
	デザイン情報学科	68	735	586	0.80
合計		190	2740	2,313	0.84

* 通信教育課程 工芸工業デザイン学科については、2019年度の1年次生より段階的に募集を停止。

5. 卒業・就職状況（2019年5月現在） *2020年5月現在は後日更新

【大学院 造形研究科】

専攻	修了者数	就職希望者数	就職者数	進学者数
修士課程 美術専攻	59	20	15	3
修士課程 デザイン専攻	67	27	21	5
小計	126	47	36	8
博士後期課程 造形芸術専攻	2	1	1	0
大学院 合計	128	48	37	8

【造形学部】

学科	卒業生数	就職希望者数	就職者数	進学者数
日本画学科	43	14	11	15
油絵学科	141	69	64	29
彫刻学科	33	15	13	8
視覚伝達デザイン学科	105	83	74	2
工芸工業デザイン学科	143	107	101	9
空間演出デザイン学科	129	69	55	5
建築学科	82	57	55	11
基礎デザイン学科	74	52	42	4
映像学科	90	45	39	9
芸術文化学科	70	44	40	4
デザイン情報学科	89	71	64	4
小計	999	626	558	100

【造形学部 通信教育課程】

学科	卒業生数
油絵学科	82
工芸工業デザイン学科	25
芸術文化学科	20
デザイン情報学科	18
小計	145

6. 学生納付金に関する情報（2019年度）

1) 学費などについて

【大学院 研究科 博士後期課程】

	新入生	在学生
入学金	150,000	—
授業料	1,185,000	1,185,000
実習費	—	—
維持費	32,400	30,000
施設費	324,000	300,000
合計	1,691,400	1,515,000

注) 1 入学金については、通常の金額を記載。減免適用者については、別項「入学金減免について」を参照。

注) 2 実習費は徴収しない。

【大学院 研究科 修士課程】

	新入生	在学生
入学金	150,000	—
授業料	1,185,000	1,185,000
実習費		
日本画	33,000	33,000
油絵・版画	52,500	52,500
彫刻・映像・写真・デ情	65,500	65,500
視デ	39,500	39,500
工デ・クリエイティブリーダーシップ*	57,500	57,500
造美・空デ・建築・基デ・芸文	29,500	29,500
維持費	32,400	30,000
施設費	324,000	300,000
合計		
日本画	1,724,400	1,548,000
油絵・版画	1,743,900	1,567,500
彫刻・映像・写真・デ情	1,756,900	1,580,500
視デ	1,730,900	1,554,500
工デ・クリエイティブリーダーシップ*	1,748,900	1,572,500
造美・空デ・建築・基デ・芸文	1,720,900	1,544,500

注) 入学金については、通常の金額を記載。減免適用者については、別項「入学金減免について」を参照。

*クリエイティブリーダーシップコースは2019年度開設のため新入生のみ。

【大学 学部】

(1) 入学金及び授業料等

	新入生・編入生	在学学生
入学金	300,000	—
授業料	1,185,000	1,185,000
実習費		
日本画	33,000	33,000
油絵・版画	52,500	52,500
彫刻・映像・デ情	65,500	65,500
視デ	39,500	39,500
工デ・クリエイティブイノベーション*	57,500	57,500
空デ・建築・基デ・芸文	29,500	29,500
維持費	32,400	30,000
施設費	324,000	300,000
合計		
日本画	1,874,400	1,548,000
油絵・版画	1,893,900	1,567,500
彫刻・映像・デ情	1,906,900	1,580,500
視デ	1,880,900	1,554,500
工デ・クリエイティブイノベーション*	1,898,900	1,572,500
空デ・建築・基デ・芸文	1,870,900	1,544,500

注) 入学金については、通常のコ額を記載。減免適用者については、別項「入学金減免について」を参照。

*クリエイティブイノベーション学科は2019年度開設のため新入生のみ。

(2) 科目等履修生・委託学生・教職課程履修費等

科目等履修生（一般）

登録料	45,000
受講料	
講義	34,500
実技演習	69,000
実習費	3,500
選考料	10,000

注) 受講料・実習費は1単位当りの額。

科目等履修生（教職課程及び学芸員課程）

本学の卒業生で教員免許取得及び学芸員資格取得を目的とする科目等履修生

登録料	45,000
受講料	
講義	3,450
実技演習	6,900
実習費	3,500
教育実習費	10,000
介護等体験費	14,000
博物館実習費	21,000
選考料	10,000

注) 1 受講料・実習費は1単位当りの額。

注) 2 本学大学院に在籍している者は登録料を免除する。

委託学生

登録料	45,000
受講料	
委託学生 A	
講義	34,500
実技演習	69,000
委託学生 B	
1年以内	592,500
6か月以内	296,250
実習費	
委託学生 A	3,500
委託学生 B	実費
選考料	10,000

委託学生 A... 授業科目の受講を目的とする者。

委託学生 B... 受入研究室及び担当教員の指導に基づき、本人の研究テーマについて修学することを目的とし、授業科目の受講を主たる目的としない者。

注) 1 委託学生 A の受講料及び実習費は1単位当りの額。

注) 2 委託学生 B の実習費は、実習費用が伴う場合、その都度実費を本人が負担する。

学籍継続者（卒業延期者）

在籍料	65,000
受講料	
講義（一般）	17,250
講義（教職・ 学芸員）	5,500
実技演習	34,500
実習費	3,500

注) 1 在籍料の算定は5,000円単位とし、その中間金額を超える場合は切上げを行う。

注) 2 在籍料は前期（半期）のみの在籍の場合、半額の32,500円とする。

注) 3 受講料・実習費は1単位当りの額。

教職課程履修費及び学芸員資格取得に係る履修費

教職課程履修費（登録料）	24,500
学芸員履修費（登録料）	21,000

【研究生】

		学部・大学院	外国人
登録料		45,000	45,000
研究指導料		690,000	1,190,000
実習費	日本画	33,000	-
	油絵・版画	52,500	52,500
	彫刻・映像・写真・デジ 情	65,500	65,500
	工デ	57,500	57,500
	造美・建築・芸文	29,500	29,500
合計	日本画	768,000	-
	油絵・版画	787,500	1,287,500
	彫刻・映像・写真・デジ 情	800,500	1,300,500
	工デ	792,500	1,292,500
	造美・建築・芸文	764,500	1,264,500

【大学 学部 通信教育課程】

(1) 入学金及び授業料

学科名	学年	入学金	授業料	計
油絵学科	1年次	30,000	285,000	315,000
	2年次		285,000	285,000
	3年次		285,000	285,000
	4年次		285,000	285,000
工芸工業デザイン学科	1年次	30,000	285,000	315,000
	2年次		285,000	285,000
	3年次		285,000	285,000
	4年次		285,000	285,000
芸術文化学科	1年次	30,000	285,000	315,000
	2年次		285,000	285,000
	3年次		285,000	285,000
	4年次		285,000	285,000
デザイン情報学科	1年次	30,000	285,000	315,000
	2年次		285,000	285,000
	3年次		285,000	285,000
	4年次		285,000	285,000

注) 1 編入学生に係る入学金は 30,000 円。

注) 2 武蔵野美術大学（別科を含む）、武蔵野美術大学短期大学部（通信教育部を含む）、武蔵野美術短期大学（通信教育部を含む）、武蔵野美術学校、武蔵野美術学園等の卒業生及び中退者は、入学金（編入学金）を免除。武蔵野美術大学造形学部通学課程からの転籍者も入学金を免除。

(2) 面接授業受講料

鷹の台校・吉祥寺校・三鷹教室で開催	左記以外の地方会場で開催
<ul style="list-style-type: none"> ・ 講義科目は 1 単位につき 8,000 円 ・ 講義科目以外の授業科目は 1 単位につき 13,000 円 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講義科目は 1 単位につき 10,000 円 ・ 講義科目以外の授業科目は 1 単位につき 16,000 円

(3) 教職課程履修費

教育職員免許法第 5 条第 1 項別表第 1 による場合	114,000
教育職員免許法第 6 条第 2 項別表第 3 及び別表第 8 による場合	57,000
教育職員免許法第 6 条第 3 項別表第 4 による場合	57,000

(4) 学芸員課程履修費

69,000 円

(5) 科目等履修生

科目等履修生（一般）

登録料	40,000
受講料（1単位当りの額）	
講義科目	12,000
講義科目以外	18,000
考查料	10,000

科目等履修生（教職生） 教育職員免許法第6条別表第3及び別表第8による場合

登録料	40,000
受講料（1単位当りの額）	
講義科目	8,400
講義科目以外	12,600
考查料	10,000

科目等履修生（教職生） 教育職員免許法第6条別表第4による場合

登録料	40,000
受講料	319,000
考查料	10,000

科目等履修生（特修生）

登録料	40,000
受講料（1単位当りの額）	
講義科目	12,000
講義科目以外	18,000
考查料	10,000

2) 入学金減免について

【大学院 研究科 博士後期課程】

減免適用者	入学金
本学造形学部卒業後他大学大学院修士修了見込者	半額
本学造形学部卒業後他大学大学院修士修了者	半額
本学大学院修士修了見込者	徴収しない
本学大学院修士修了者	徴収しない

注) 1 本学短期大学卒業者の中には、専攻科修了後学位授与機構において学士の学位を得た者を含む。

注) 2 短期大学部及び造形学部には、通信教育課程を含む。

【大学院 研究科 修士課程】

減免適用者	入学金
本学造形学部卒業生	半額
本学造形学部卒業見込者	半額
本学大学院修了者	半額
本学大学院修了見込者	半額

【大学 学部】

入学区分	減免適用者	入学金
1 年次入学	本学造形学部に兄弟姉妹が在籍する者	全額
	本学短期大学卒業生	半額
	本学造形学部卒業生	半額
	本学造形学部卒業見込者	半額
	本学大学院修了者	半額
	本学大学院修了見込者	半額
編入学	本学造形学部に兄弟姉妹が在籍する者	全額
	本学短期大学卒業生	半額
	本学造形学部卒業生	半額
	本学造形学部卒業見込者	半額
	本学大学院修了者	半額
	本学大学院修了見込者	半額
転籍	本学通信教育課程からの転籍者	半額

注) 転科・転専攻は、在学生の本学造形学部内での学籍異動なので、入学金は徴収しない。

7. 当該学校の所在地

鷹の台キャンパス

法人本部、武蔵野美術大学造形学部（通学課程）、造形構想学部、大学院造形研究科
〒187-8505 東京都小平市小川町 1-736

市ヶ谷キャンパス

武蔵野美術大学造形構想学部、大学院造形構想研究科
〒162-0843 東京都新宿区市谷田町 1-4

吉祥寺校

武蔵野美術大学造形学部通信教育課程
〒180-8566 東京都武蔵野市吉祥寺東町 3-3-7

三鷹ルーム（通信教育課程三鷹教室）

武蔵野美術大学造形学部通信教育課程
〒180-0006 東京都武蔵野市中町 1-19-3 武蔵野 YS ビル 6 階

8. 学外施設

三鷹ルーム（東京都武蔵野市）

gallery αM（東京都千代田区）

デザイン・ラウンジ（東京都港区）

奈良寮（奈良県奈良市）

五箇山「無名舎」（富山県南砺市）

パリ国際芸術都市アトリエ（フランス）

9. 役員及び教職員に関する情報

1) 役員等に関する情報

法人役員

理事 10 名、監事 2 名（2019 年 5 月 1 日現在）

理事長	天坊昭彦
学長・理事	長澤忠徳
常務理事	木村修三
理事	富松保文
理事	中島信也
理事	大坪圭輔
理事	白賀洋平
理事	古河直純
理事	宮崎晋
理事	向山卓二
監事	小川昭夫
監事	幸島祥夫

*上記法人役員については 2019 年 11 月 16 日に任期満了となり、11 月 17 日より下記の構成となった。

理事 9 名、監事 2 名（2019 年 11 月 17 日現在）

理事長	白賀洋平
学長・理事	長澤忠徳
常務理事	木村修三
理事	赤塚祐二
理事	富松保文
理事	中島信也
理事	大沼信之
理事	島田秀男
理事	関洋
監事	小川昭夫
監事	小松哲

評議員 25 名*

*上記評議員については 2019 年 11 月 9 日に任期満了となり、11 月 10 日より 24 名となった。

2) 教職員に関する情報 (2019年5月1日現在)

武蔵野美術大学教職員数

専任教員 138名

- ・ 職位内訳： 教授 119名、准教授 18名、専任講師 1名
- ・ 年齢内訳： 30代 3名、40代 25名、50代 56名、60代 53名、70代 1名

客員教授 38名

助手 53名

非常勤講師 705名

教務補助員 65名

事務系職員 161名 (専任 73名、嘱託 43名、長期臨時 45名)

II. 事業の概要

学校法人武蔵野美術大学は、2014年3月26日に開催された理事会において、2014年度から2021年度までの第1次中長期計画を策定した。同中長期計画では、18歳人口が安定的に推移する2014年度から2017年度までの4年間の第一期、安定期を経て再び減少を始め減少速度が加速する2018年度から2021年度までの4年間の第二期と位置づけ、明確なミッション、ビジョンのもと、第一期の間にビジョン実現の基礎を確立することを目指している。

2019年度は第二期2年目に当たり、事業計画に重点課題として設定した主要8項目について検討・実施を進めた。その進捗状況は、以下のとおりである。

【2019年度重点課題】

1. 教育研究組織の改編等
2. 教育力の強化
3. 教育環境充実に向けたキャンパス整備
4. 美術館・図書館機能の充実
5. 学生支援の充実・強化
6. 研究支援・社会連携推進、美術教育の普及、美術文化の振興
7. 広報・IR活動の強化
8. 組織力・大学運営力の強化
9. その他の主な取組

1. 教育研究組織の改編等

2019年度より新学部として造形構想学部、新大学院として造形構想研究科を開設し、造形構想学部には、従来の美術大学の枠にとらわれない新たな領域開拓を目指す学科として「クリエイティブイノベーション学科」を新設し、造形学部から映像学科を移設した。また、造形構想研究科には造形構想専攻を設置し、造形研究科から移設される映像・写真コースと新設されるクリエイティブリーダーシップコースを設置した。

通信教育課程では、アート・デザインの多様化の情勢を受け、従来の4学科9コースを3学科4コースに改編し、専門分野をより深く横断的に学べる教育課程を2020年4月より開設するための新課程対応準備を行った。

2. 教育力の強化

GPA制度を導入した。学修の状況及び成果を示す指標として活用し、成績不振者の抽出等、学生ひとりひとりに適切な修学指導を行うことに繋げたい。また、本学はfunctional GPAを採用したが、これに伴い、素点による成績評価と履修取消制度を全学的に導入した。

3. 教育環境充実に向けたキャンパス整備

【鷹の台キャンパス】

- (1) エレベータ棟および7号館・8号館バリアフリー対応工事並びに（仮称）屋外作業場建築を着工、2020年度前期での竣工を目指す。
- (2) バリアフリー対応工事にあわせて、7号館外壁補修工事を3期に分けて実施することを計画し、1期工事を2020年2～3月に実施した。照明・空調更新については、室内の工事が多くあり、再配置計画の内装改修に併せて実施としたいため、2020年度以降の工事として再計画した。
- (3) 学科配当教室等の集約による教育効果を高めることを目的としたデザイン系学科の再配置計画の検討を、ワーキングチームを中心に進めるとともに、計画の一環として、16号館建築工事を着工した。
- (4) 特定屋外喫煙場所の設置については、鷹の台キャンパスに3カ所設置し、吉祥寺キャンパスに1カ所の設置を実施した。

【市ヶ谷キャンパス】

第1次中長期計画の戦略的構想に位置付けられている市ヶ谷キャンパスは昨年4月に開設された。大学院造形構想研究科造形構想専攻クリエイティブリーダーシップコースの研究環境として6、7階が整備され、7月には株式会社良品計画と協働で新しい価値づくりの拠点となる共創スペースとして「MUJIcom 武蔵野美術大学市ヶ谷キャンパス」を1階に整備し、実践的なワークショップ等で活用するとともに学生食堂としても利用されている。

引き続き、2021年度の造形構想学部クリエイティブイノベーション学科の学生受け入れに向けて、ワークショップや産学プロジェクトに対応した施設および工房などの整備を計画的に進める。

【学外施設】

- (1) 奈良寮については、母屋の門扉改修工事と蔵の改修工事を実施した。
- (2) 五箇山については、屋根半面の葺き替え改修工事を実施した。

4. 美術館・図書館機能の充実

1) 展覧会活動の多様化と内容の充実及び適切な展示改革のあり方の検討

- (1) 美術館では年間9回、民俗資料室で1回の展覧会を行い、延べ5万5千人を越える入場者があった。本学の歴史を回顧した2つの展示や演劇パフォーマンス、日本ポーランド国交樹立100周年を記念してのスタシス・エイドリゲヴィチウスによる大規模展等を開催した。
- (2) 展覧会の開催に合わせて展示関連のレクチャーやシンポジウムを実施したほか、近隣の小中学校等と連携した鑑賞事業を実施し、充実した教育普及プログラムを展開した。
- (3) 慣習化している教授退任展、優秀作品展、助手展について、合理的かつ効果的な展覧会実施のための問題提起を行った。特に退任展については、新たに美術館における退任展実施方針を定めた。

2) 研究室との連携を通じた学修支援活動の推進と教職員及び学生の利用サービスの向上

- (1) 美術館では多様な展覧会や関連イベントを開催したほか、椅子をはじめとする所蔵品や開催中の展覧会を活用した授業実施に協力した。また、博物館実習においては50名ほどの学生を受け入れ、独自の充実したプログラムを展開した。

- (2) 図書館では、従来の貴重書の閲覧を含む授業対応に加え、リテラシー教育の一環として、「英語」科目の授業における図書館設備・サービスの説明を行った。また、芸術文化学科の「ミュージオロジーと生涯学習」に職員が参加し、学生サービスに対する認識を拡張する機会とした。
- (3) 図書館内に、学生が横になることもできる「リラックススペース」や、双方向の情報交換場所としての「ホワイトボードスペース」を設置した。また、寄贈などによる複本を学生に無償提供する「ブックリサイクル」を実施した。
- (4) 中村とうよう楽器資料について、すべての資料へのメンテナンス処置を行った上で、徐加湿機能や資料棚等保存に適した環境の整った収蔵庫で保管することとし、授業等での利用に供する整備を行った。
- (5) 2010年の旧美術資料図書館改修以来、外部倉庫に預けたままになっていたニケ像ほか25点の大型石膏像を、図書館と美術館の空きスペースに配置し、学生が自己学習の教材として利用できるようにした。

3) 館蔵各種資料群のデジタルアーカイブ化の推進

- (1) 美術資料では、「山脇巖・道子資料」「片山利弘資料」「横尾忠則をはじめとした未整理のポスター」を中心に整理・デジタルアーカイブ化を進めた。また「杉浦康平装幀コレクション」を美術資料データベース上でも検索可能にし、更にその資料性を高めた。
- (2) 図書資料の特別コレクションでは、「大辻清司アーカイブ」、「中村とうようコレクション」を中心に整理を進めた。貴重書（絵本含む）に関しては、これまでのデータが不完全な状態のものが多数あるため、まずは現在あるデータと現物との確認作業を進め、今後5年程度で完結させる計画を立てた。

4) 造形研究センター等の活動成果についての利活用を促進するための「ムサビデザイナーアーカイブ（仮称）」の構築

これまで造形研究センターでの研究活動のなかで取得した膨大な研究資料について、「ムサビデザイナーアーカイブ（仮称）」にて恒常的に一般公開することを目的に整備を進めた。「芦原義信建築アーカイブ」の図面資料公開用WEBの新たなプラットフォームの開発、「杉浦康平デザイナーアーカイブ」公開用WEBプラットフォームの開発、そして杉浦デザイン思想の紹介および手法解説WEBサイトについて検討を重ね、その制作に着手した。両デジタルアーカイブともに2020年度の公開を目指す。

5. 学生支援の充実・強化

- (1) 障害者差別解消法の趣旨に鑑み、大学院生の聴覚障害者の授業支援のために、外部のノートテイクの導入を実施した。また、就職活動を行う聴覚障害学生に対して、学内企業説明会の際にノートテイクの手配を行い支援体制の充実を図った。
- (2) キャンパスにおけるソーシャルワーカーは、障害や病気、または周囲の環境的な問題によって、日常生活を送る上で支障を伴ったり困難を抱えていたりする人々へ、相談援助を行う人を指す。本学では学生相談室にカウンセラーが3名交代で勤務し、保健室、校医と連

携して活動している。ソーシャルワーカーの導入や活用については引き続き検討課題としたい。

- (3) 「地方出身学生支援奨学金」を創設し、学部学生生7名、大学院修士学生3名に、30万円の贈与を行った。
- (4) 武蔵野美術大学第二学生寮を2020年4月に開設が決定した。年度内に定員60名が満室となり、WiFi環境、寮生用アトリエなどの設備充実を図り、本学専用寮として、学生の受け入れ態勢を整えた。
- (5) 就職ガイダンスや模擬試験、就職を支援するための各種講座を約60件実施した。その一部では、多様なキャリア形成を支援するため、「総合職の理解講座」等、就職活動の選択肢を広げる取り組みも実施した。
- (6) 就職内定者を「就活アドバイザー」とし、就活アドバイザーが就活生に一对一で親身に相談に乗る「就活なんでも相談会」を5回実施した。

6. 研究支援・社会連携推進、美術教育の普及、美術文化の振興

1) 研究支援の推進

- (1) 科学研究費補助金において新規採択4件、継続18件の合計22件を獲得した。更なる科研費申請・採択に向けて、新規申請者の発掘、スタッフの研修参加、間接経費の活用、研究者へのコンプライアンス教育の徹底等を行った。
- (2) 産官学共同、受託研究を12件実施した。
- (3) 昨年度に引き続き、研究の実施数の増加と質の向上に向けて、契約関連及び知的財産の管理・活用の仕組み作りを進めた。

2) 社会連携の推進、美術教育の普及、美術文化の振興

- (1) 今後のクリエイティブ教育のあり方を模索していく情報発信型の公開講座「クリエイティブを学ぶ！～デザイン、アートの力って？」(全5回)を実施した。
- (2) 教育研究に関する協定を締結している東京工業大学と、合同ワークショップ「コンセプト・デザインング」を実施した。
- (3) 本学独自の活動として全国各地の学校や美術館で展開する「旅するムサビプロジェクト」や、小・中学生を対象とするワークショップ等に取り組んだ。
- (4) 千代田区東神田の gallery αM において、αM プロジェクト 2019「東京計画 2019」と「αM+ vol.1 国立奥多摩美術館 “国立奥多摩湖” ～もちつもたれつ奥多摩コイン～」を開催した。
- (5) 8月に東京ミッドタウンが主催する「MIDTOWN LOVES SUMMER 2019」に参加し、本学学生企画として子ども向けのワークショップを実施した。
- (6) 東京ミッドタウン・デザインハブ第83回企画展『ヴィジュアル・コミュニケーション・デザイン・スタディ』を11月に開催した。
- (7) 芸術系教科等担当教員等を対象に実施した全国研修会において、中学校美術科、高等学校芸術科(美術)向けの研修会を担当した。
- (8) 武蔵野美術大学校友会と共催で、地域フォーラム「アート&デザイン 2019 吉祥寺 もうひとつの芸術祭」を開催した。
- (9) 市ヶ谷キャンパス開設と同時に、造形構想研究科内に、「ソーシャルクリエイティブ研究所」(RCSC)を設置、「日本をデザインする」、「これからのデザイン教育」、「ライフスタ

イルデザイン」の3つをビジョンに掲げ、企業自治体と11のプロジェクトを実施した。

- (10) RCSCでは発足イベント『ソーシャルクリエイティブ研究所発足記念イベント「日本のビジョンをデザインする』』や、ワークショップとして『ソーシャルクリエイティブのために「ありえない」を生み出すアート思考ワークショップ』などを実施した。
- (11) 市ヶ谷キャンパス共創スタジオにおいて、大学と企業、地域住民のコミュニティとなる場所をコンセプトとし、オープン記念のイベント「みんなの新たな学び舎」や、本学の美術系教員を中心とした展覧会「Mのたね」展などを実施した。

7. 広報・IR活動の強化

- (1) 「市ヶ谷キャンパス」「MUJIcom 武蔵野美術大学市ヶ谷キャンパス」「共創スタジオ」「ソーシャルクリエイティブ研究所」の開設に伴い内外に広く告知し、市ヶ谷キャンパス内で開催される各種イベントについても積極的に発信した。
- (2) 学内サイネージの設置について、今後学内にサイネージを介して共有すべき重要な情報としては「100周年記念事業」が深く関係すると予想されるため、発信コンテンツと設置場所については、記念事業計画の動向をにらみつつ2019年度は見送った。
- (3) 100周年に向けた学内ブランディングマネジメント体制整備について、100周年記念事業計画の進捗に連動して進行させるため2019年は実施されなかった。
- (4) 学校法人の概要、事業の概要、財務の概要と共に本学の教育・研究、国際交流、社会貢献等の取り組みや施策の現状をわかりやすくまとめた冊子「MUSASHINO ART UNIVERSITY FACTBOOK2018」を昨年度に引き続き発行した。

8. 組織力・大学運営力の強化

- (1) 私立学校法の改正を踏まえ、寄附行為の改正案を策定し、認可申請を行った。
- (2) 100周年事業計画の策定に先立ち、100周年構想準備委員会を設置し、100周年構想ワーキングチームによる検討を行った。
- (3) 二学部制への移行に合わせ学内ガバナンス体制を整備し、4月より新たに法人運営会議、大学運営会議等を置き、事務組織においても、経営戦略室と大学企画グループを新設した。
- (4) 90周年事業として寄付金募集を行い、2019年度で84,770,020円の寄付があった。
- (5) 新人事給与システムの2020年7月正式運用開始に向け、導入準備を行った。
- (6) 3キャンパスに対応する会議システムの導入、及び原議決裁システムを導入した。
- (7) 事務系職員の能力底上げを図るべく職員研修を行い、優秀な人材を採用するため、採用プロジェクトチームを編成して職員採用を行った。また、2021年度導入に向けて、新たな人事給与制度の検討を行った。
- (8) 教学系職員の時代に即した働き方を図るべく、助手の労働時間を管理できる助教制度を導入した。
- (9) 自然災害や事故等、危機が発生した場合の事業継続計画（BCP）について検討を行った。
- (10) 有機物や危険物等に関する事故を未然に防ぐため、使用・管理方法について検討することを目的に、衛生委員会を安全衛生委員会に改組した。
- (11) 事業計画どおりに新会計システムの導入を実現した。
- (12) 学費延納・分納願制度において計画どおりに改定を実施し、願の提出方法や制度運用の公

平性において改善され始めている。

- (13) 学費収納代行システムの導入検討について、2020 年度より国の修学支援新制度が開始されることで本学の奨学金の給付・学費減額についても管理方法の複雑化が見込まれるため、状況を鑑み、既存の方法に基づいて的確に対応することが最善と判断し、本年度における収納代行システム導入の検討は一旦中止した。

9. その他の主な取組

1) 教育研究関連の取組

- (1) 学費と学籍の関係性や休学できる期間や回数について、規則上の整合性を図るため、学則及び大学院規則を改正した。
- (2) 「Beyond 2029－明日の Musabi を構想する」をテーマに全学研修会を実施、3 月に記録集を発行した。出席者は 117 名であった。
- (3) 今年度より FD 研修会と名称を改め「美大生のメンタルヘルス」を実施した。出席者は 94 名であった。
- (4) 学生の視野を広げるために、課外講座を計 34 回実施した。多数の学生の参加を促すため、国内外のアーティストや研究者等を招き、講演や対談など多彩な形で開催した。

2) 国際化の推進

- (1) 協定留学生（受入）のための英文科目資料「モジュール・ガイド」の制作を進め、版画・映像・基礎デ・彫刻の 4 研究室のモジュール・ガイドを 2019 年度中に完成させた。受入協定留学生の科目選択のための資料として活用している。2020 年度継続事業として、他の研究室についても制作を進めている。
- (2) 前年度より 1 件増の、合計 8 件（9 名）の訪問教授を実施した。
- (3) 協定校プロジェクト 9 件及び国際交流プロジェクト 3 件、計 12 件を実施する予定だったが、新型コロナウイルス感染拡大等のため 12 件のうち 5 件が中止となり、7 件の実施となった。

3) 入学試験関連の取組

- (1) 高大接続改革の一環として 2021 年度入学試験から大学入試名称が変更になるところ、本学は先駆けて 2020 年度入学試験より入試名称及び一部日程を変更して実施した。
- (2) 統一入学試験大阪会場、学外企業による入学試験問題の作問は、2018 年度事業から継続して実施した。
- (3) 総合型選抜と学校推薦型選抜の外国籍志願者に対して、外国人留学生試験の条件（日本留学試験 200 点以上、日本語能力試験 N2 以上に合格）よりも高度な日本語能力レベル（日本留学試験 280 点以上、日本語能力試験 N1 合格）を課した。
- (4) 総合型選抜と学校推薦型選抜の志願者数は合計で 521 名、前年比 28 名減となった。
- (5) 一般選抜の志願者数は 6,696 名、前年比 696 名減となった。
- (6) 外国人留学生特別選抜の志願者数は 613 名、前年比 72 名増となった。
- (7) 大学院デザイン専攻建築コースで、5～6 月に試験を行い、合格者を決定する〔学内推薦制度〕を導入した。通例 10 月に試験を行う大学院修士課程選抜（A 日程）よりも早い時期に合格者を決定するもので、初年度は 3 名の志願者があり全員合格、入学した。

- (8) 外国籍志願者に対して、外国人留学生試験の条件（日本留学試験 200 点以上、日本語能力試験 N2 以上に合格）と同等の条件を課した。志願者数は 690 名、前年比 3 名減となった。
- (9) コンサルティングによる入試調査及び分析結果を入試チーム、広報チーム、経営戦略室で共有し、次年度以降の入学試験検討にあてた。

4) 自己点検・評価の取組

今年度より第 7 期自己点検・評価委員会がスタートし、第 6 期自己点検・評価委員会において検討を重ねてきた、2016（平成 28）年度認証評価結果に対する「改善報告書」を大学基準協会に提出した。これに対し、引き続き改善に取り組むべき事項もあったが、再度報告を求められる事項はなかった。また、前年度まで 3 回にわたり実施された「改革合同会議」に代わるものとして「大学運営会議」において、本年度の教育研究活動を総括し、次年度の活動の方向性を確認した。

5) 通信教育課程の取組

- (1) 2020 年度からの教育課程の改編に対応すべく教育情報システムの改修・整備を実施した。
- (2) 2020 年度より開講するメディア授業 3 科目のコンテンツを制作した。芸術文化学科芸術研究コースを中心に web 上で完結するメディア授業を拡充することにより、時間や場所の制約を受けない学習環境を整備する。
- (3) 教育課程の改編に伴い新規開講科目の教材を作成した。
- (4) 教育課程の改編に伴い入学案内・学生募集要項のデザイナー新、web サイトの新規コンテンツを作成・公開した。

Ⅲ. 財務の概要

1. 経年比較

(1) 貸借対照表

(単位：千円)

科 目	2015年度末	2016年度末	2017年度末	2018年度末	本年度末
固定資産	44,882,267	44,870,269	44,604,647	44,776,862	44,292,514
流動資産	5,941,974	6,142,162	6,722,290	6,777,903	7,432,354
資産の部合計	50,824,241	51,012,430	51,326,938	51,554,765	51,724,868
固定負債	1,865,177	1,934,811	2,074,043	2,152,965	2,154,367
流動負債	4,270,840	2,746,215	2,632,484	2,875,078	2,627,732
負債の部合計	6,136,017	4,681,026	4,706,527	5,028,042	4,782,099
基本金	47,791,473	48,417,380	48,536,210	49,117,752	49,223,536
繰越収支差額	△ 3,103,249	△ 2,085,975	△ 1,915,800	△ 2,591,029	△ 2,280,766
純資産の部合計	44,688,224	46,331,404	46,620,411	46,526,722	46,942,769
負債及び純資産の部合計	50,824,241	51,012,430	51,326,938	51,554,765	51,724,868

(2) 収支計算書

① 資金収支計算書

(単位：千円)

科 目	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	本年度	
収入の部	学生生徒等納付金収入	8,149,357	8,145,023	8,202,496	8,169,498	8,225,652
	手数料収入	208,420	213,338	218,500	261,788	251,295
	寄付金収入	56,742	35,520	32,434	46,234	79,291
	補助金収入	835,490	906,075	686,547	587,299	564,979
	資産売却収入	0	0	0	0	270,600
	付随事業・収益事業収入	112,972	128,804	104,377	35,388	34,485
	受取利息・配当金収入	49,334	11,760	9,033	64,655	113,949
	雑収入	101,621	1,658,925	275,332	122,073	181,850
	借入金等収入	0	0	0	0	0
	前受金収入	1,990,529	2,046,593	1,954,014	1,940,171	1,903,423
	その他の収入	3,183,865	380,116	485,683	330,411	773,667
	資金収入調整勘定	△ 2,023,393	△ 3,366,513	△ 2,266,417	△ 2,058,192	△ 2,087,461
	前年度繰越支払資金	5,093,555	5,546,227	5,721,121	6,306,497	6,518,364
収入の部合計	17,758,492	15,705,868	15,423,119	15,805,821	16,830,094	
支出の部	人件費支出	4,566,612	4,588,248	4,634,938	4,360,038	4,512,307
	教育研究経費支出	2,912,212	2,532,089	2,457,283	2,368,721	2,484,174
	管理経費支出	758,699	910,995	731,183	1,148,699	707,976
	借入金等利息支出	0	0	0	0	0
	借入金等返済支出	0	0	0	0	0
	施設関係支出	3,898,239	509,534	204,159	548,792	262,835
	設備関係支出	447,975	263,575	303,820	334,569	266,573
	資産運用支出	179,190	748,114	822,949	777,873	1,216,546
	その他の支出	538,470	1,061,540	633,497	626,421	901,582
	資金支出調整勘定	△ 1,089,132	△ 629,348	△ 671,205	△ 877,656	△ 639,253
	翌年度繰越支払資金	5,546,227	5,721,121	6,306,497	6,518,364	7,117,354
	支出の部合計	17,758,492	15,705,868	15,423,119	15,805,821	16,830,094

②事業活動収支計算書

(単位：千円)

科 目		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	本年度	
教育活動収入の部	学生生徒等納付金	8,149,357	8,145,023	8,202,496	8,169,498	8,225,652	
	手数料	208,420	213,338	218,500	261,788	251,295	
	寄付金	56,742	36,674	32,811	45,263	72,130	
	経常費等補助金	773,406	852,044	686,547	587,299	558,309	
	付随事業収入	112,972	128,804	104,377	35,388	34,485	
	雑収入	101,167	1,657,122	274,400	122,037	181,567	
	教育活動収入計	9,402,064	11,033,004	9,519,131	9,221,272	9,323,437	
	教育活動支出の部	人件費	4,551,219	4,579,627	4,614,022	4,377,038	4,450,119
		教育研究経費	3,881,707	3,748,219	3,665,986	3,615,104	3,722,302
		管理経費	875,880	1,060,254	889,857	1,301,282	878,384
徴収不能額等		0	0	0	0	0	
教育活動支出計		9,308,806	9,388,099	9,169,865	9,293,424	9,050,805	
教育活動収支差額		93,257	1,644,905	349,266	△ 72,152	272,633	
教育活動外収入の部	受取利息・配当金	49,334	11,760	9,033	64,655	113,949	
	その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0	
	教育活動外収入計	49,334	11,760	9,033	64,655	113,949	
	教育活動外支出の部	借入金等利息	0	0	0	0	0
		その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0
		教育活動外支出計	0	0	0	0	0
教育活動外収支差額		49,334	11,760	9,033	64,655	113,949	
経常収支差額		142,591	1,656,665	358,299	△ 7,497	386,582	
特別収支	資産売却差額	0	0	0	0	113,639	
	その他の特別収入	99,618	82,433	17,812	18,036	22,330	
	特別収入計	99,618	82,433	17,812	18,036	135,969	
	資産処分差額	235,939	14,160	5,326	14,549	25,184	
	その他の特別支出	81,294	81,758	81,778	89,678	81,320	
	特別支出計	317,233	95,918	87,104	104,227	106,503	
特別収支差額		△ 217,615	△ 13,485	△ 69,293	△ 86,191	29,465	
基本金組入前当年度収支差額		△ 75,024	1,643,181	289,006	△ 93,688	416,047	
基本金組入額合計		△ 3,096,617	△ 644,907	△ 118,830	△ 581,541	△ 246,026	
当年度収支差額		△ 3,171,641	998,274	170,176	△ 675,230	170,021	
前年度繰越収支差額		△ 190,672	△ 3,103,249	△ 2,085,975	△ 1,915,800	△ 2,591,029	
基本金取崩額		259,063	19,000	0	0	140,242	
翌年度繰越収支差額		△ 3,103,249	△ 2,085,975	△ 1,915,800	△ 2,591,029	△ 2,280,766	

(参考)

事業活動収入計	9,551,015	11,127,197	9,545,976	9,303,963	9,573,355
事業活動支出計	9,626,039	9,484,017	9,256,969	9,397,651	9,157,308

2. 主な財務比率比較

事業活動収支計算書及び貸借対照表から、本学の過去5年間の財務比率を計算し下表に示した。2015（平成27）年度改正後の学校法人会計基準の様式に基づいて算出している。また、「評価」欄は日本私立学校振興・共済事業団による評価を、「芸術系学部平均」欄は芸術系21法人の2018（平成30）年度の平均値を表したものである。（いずれも日本私立学校振興・共済事業団編『今日の私学財政』2019（令和元）年度版による。）

(1) 事業活動収支計算書関係財務比率

比率	算式(×100)	評価	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	本年度	芸術系学部平均・2018年度
事業活動収支差額比率	$\frac{\text{基本金組入前当年度収支差額}}{\text{事業活動収入計}}$	△	△0.8%	14.8%	3.0%	△1.0%	4.3%	1.7%
学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{*経常収入}}$	～	86.2%	73.7%	86.1%	88.0%	87.2%	79.1%
寄付金比率	$\frac{\text{寄付金}}{\text{事業活動収入計}}$	△	1.0%	0.3%	0.5%	0.5%	0.8%	0.7%
経常寄付金比率	$\frac{\text{教育活動収支の寄付金}}{\text{*経常収入}}$	△	0.6%	0.3%	0.3%	0.5%	0.8%	0.5%
補助金比率	$\frac{\text{補助金}}{\text{事業活動収入計}}$	△	8.7%	8.1%	7.2%	6.3%	5.9%	9.8%
経常補助金比率	$\frac{\text{教育活動収支の補助金}}{\text{*経常収入}}$	△	8.2%	7.7%	7.2%	6.3%	5.9%	9.5%
人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{*経常収入}}$	▼	48.2%	41.5%	48.4%	47.1%	47.2%	54.7%
教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{*経常収入}}$	△	41.1%	33.9%	38.5%	38.9%	39.4%	33.5%
管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{*経常収入}}$	▼	9.3%	9.6%	9.3%	14.0%	9.3%	11.1%
借入金等利息比率	$\frac{\text{借入金等利息}}{\text{*経常収入}}$	▼	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%
基本金組入率	$\frac{\text{基本金組入額}}{\text{事業活動収入計}}$	△	32.4%	5.8%	1.2%	6.3%	2.6%	12.3%
減価償却額比率	$\frac{\text{減価償却額}}{\text{*経常支出}}$	～	11.2%	14.3%	15.0%	14.8%	15.5%	13.7%
人件費依存率	$\frac{\text{人件費}}{\text{学生生徒等納付金}}$	▼	55.8%	56.2%	56.3%	53.6%	54.1%	69.1%
基本金組入後収支比率	$\frac{\text{事業活動支出}}{\text{事業活動収入-基本金組入額}}$	▼	76.1%	90.5%	98.2%	107.7%	93.3%	112.0%
経常収支差額比率	$\frac{\text{経常収支差額}}{\text{*経常収入}}$	△	1.5%	15.0%	3.8%	△0.1%	4.1%	0.5%
教育活動収支差額比率	$\frac{\text{教育活動収支差額}}{\text{教育活動収入計}}$	△	1.0%	14.9%	3.7%	△0.8%	2.9%	△3.0%

(2) 貸借対照表関係財務比率

比率	算式(×100)	評価	2015年度末	2016年度末	2017年度末	2018年度末	本年度末	芸術系学部平均・2018年度末
純資産構成比率	$\frac{\text{純資産}}{\text{負債+純資産}}$	△	87.9%	90.8%	90.8%	90.2%	90.8%	89.0%
繰越収支差額構成比率	$\frac{\text{繰越収支差額}}{\text{負債+純資産}}$	△	△6.1%	△4.1%	△3.7%	△5.0%	△4.4%	△11.9%
固定比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{純資産}}$	▼	100.4%	96.8%	95.7%	96.2%	94.4%	98.7%
固定長期適合率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{純資産+固定負債}}$	▼	96.4%	93.0%	91.6%	92.0%	90.2%	92.7%
固定資産構成比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{総資産}}$	▼	88.3%	88.0%	86.9%	86.9%	85.6%	87.8%
有形固定資産構成比率	$\frac{\text{有形固定資産}}{\text{総資産}}$	▼	61.0%	59.7%	57.7%	56.5%	54.1%	58.0%
特定資産構成比率	$\frac{\text{特定資産}}{\text{総資産}}$	△	21.1%	28.0%	29.0%	30.2%	31.3%	21.4%
流動資産構成比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{総資産}}$	△	11.7%	12.0%	13.1%	13.1%	14.4%	12.2%
流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	△	139.1%	223.7%	255.4%	235.7%	282.8%	230.7%
退職給与引当特定資産保有率	$\frac{\text{退職給与引当特定資産}}{\text{退職給与引当金}}$	△	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	76.9%
固定負債構成比率	$\frac{\text{固定負債}}{\text{負債+純資産}}$	▼	3.7%	3.8%	4.0%	4.2%	4.2%	5.7%
流動負債構成比率	$\frac{\text{流動負債}}{\text{負債+純資産}}$	▼	8.4%	5.4%	5.1%	5.6%	5.1%	5.3%
総負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{総資産}}$	▼	12.1%	9.2%	9.2%	9.8%	9.2%	11.0%
負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{純資産}}$	▼	13.7%	10.1%	10.1%	10.8%	10.2%	12.4%
積立率	$\frac{\text{運用資産}}{\text{要積立額}}$	△	105.8%	103.9%	104.0%	102.1%	102.0%	85.2%

[評価] △高い値が良い ▼低い値が良い ～どちらともいえない